



コミセンレポ — コミセン、和白5校区などの注目情報です —

わじろ映画館 開館15周年記念上映レポート

コミセンわじろは今年で15周年を迎えました。開館記念日である8月9日木曜日、5階多目的ホールにて第3回「わじろ映画館」が開催されました。

今回は開館記念なので無料での上映に。事前にコミセンのあるJR福工大前駅には、映画と同じ黄色いハンカチが！上映を心待ちにさせていただきました、地域のみなさまが列をつくって開場を待つなど、145名の方々にご来場いただきました。開場後、館長が扮する「タカムラケン」の前紹介、みんなで楽しむお約束をしましていよいよ上映。わじろ映画館の醍醐味は、大笑いしたり歓声をあげたりできるところ。懐かしくて、でも今でも面白い

て、心が揺さぶられる名画「幸福の黄色いハンカチ」を、みんなで心から楽しむことができた時間となりました。

また会場内では、利用者のみなさんから黄色いハンカチにいただいた誕生日のメッセージを掲示。当日も鑑賞後、大きな黄色い



▲ 来場いただいた方からメッセージをもらった。

布にメッセージをいただきました。ご協力いただいた地域のみなさま、ありがとうございます。次もまた、ご来場ください！



▲ JR福工大前駅の黄色いハンカチのディスプレイ



コミセン活用術 — 私たちの施設を使って、もっと身近に —

シニアトライアスロン 秋もスポーツ！

コミセンわじろでは、地域のみなさまの交流の機会となるさまざまな企画やイベントを計画しています。この秋は10/8(祝)体育の日にコミセンへ！昨年に続き実施の『シニアトライアスロン』。楽しいレクリエーション的な競技だけでなく、体力チェックや相談ブースなど、これからの健康を考えるためのコーナーもあるイベントを行います。名前に“シニア”と入ってはありますが、幅広い世代の方が楽しめますよ。地域のみなさま、是非ご参加ください。詳細はコミセンHPや公式Facebookでお伝えいたします。最新情報をゲットしたい方は、Facebookへの「いいね！」もお忘れなく！

これからの主な予定 ※2018年8月の情報です。変更の場合もございます。

- シニアトライアスロン(楽しく健康づくり)《10/8予定》
- 第6回コミセンまつり(和白5校区地域交流イベント)《2/11予定》
- シビリンピック(市民のオリンピックイベント)《3月頃予定》 **NEW**



▲ 昨年のシニアトライアスロン実施風景。参加者の熱心さが伝わります。



〒811-0213 福岡県福岡市東区和白丘1丁目22-27

☎092-608-8480 FAX:092-608-8485

【開館時間】午前9時から午後9時まで(多目的ホールは午後10時まで)

【休館日】毎月最終月曜日(祝日のときは翌日)、及び年末年始(12/28～1/3)

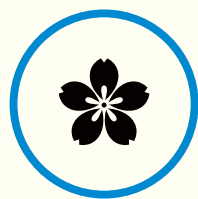
より詳しい情報は、コミセンわじろ公式ホームページをご覧ください。

公式HP <http://wajiro.info>

facebookでも、コミセンわじろの日常を発信中！

facebook www.facebook.com/komisenwajiro





地域 〇〇 文化

わじろじまん — 地域にある、次に伝えたい「誇り」をご紹介します —

和白干潟 「和白の海」のむかしといま

表紙の写真は、昭和30年代の和白の、海苔の養殖の風景です。当時はアサリだけでなく、タイラギなどさまざまな貝、カブトガニやクルマエビもいたという話も聞いたことがあります。私たちに身近な、でも知らないことも多い和白の海のむかしと今について、今回は取材しました。

かつては飛び込み台も。昔の和白の海

今回まずお話いただきたいのは、以前にもwajicoに登場いただいた和白郷土史研究会の小金丸会長です。「和白の海は、当時は子どもでにぎわう海水浴場だった。飛び込み台がいくつかあってね。もちろん潮が引いたら今と同じ干潟なんだけど。付近で育った子どもたちは、本当によく泳いだり遊んだりしていたそうです。」当時は前述した海苔の養殖や、近海の漁も盛んでした。その分、漁業で生業を立てる人々が海を綺麗にしていた、守ってくれていたのも、当時の和白の特徴だったそうです。しかし時代は高度成長期に。開発のため、貴重な海が埋立地になった例も多く、海の幸を誇った和白の海も一時は埋め立てられる計画もありました。多くの漁業関係者はこの海から離れ、自主的に海を守ろうとする人も少なくなりました。

しかし残そうという地元の声や、開発一辺倒の時代が過ぎ去ったこともあり、幸いにし



1 和白干潟での潮干狩りの風景。初夏の5月頃をピークに、人々が集まる。

て和白干潟は、現在の姿を残しています。

まちに残る、貴重な存在としての干潟

和白干潟の自慢とは何か。ウエットランドフォーラム代表で、干潟に親しむ活動を続けている松本さんに聞いてみました。「まず干潟がほぼ自然のまま残っていること。これは本当に国内でも有数で、ほとんど例がない。そして駅から歩いていけるまちなかにあるということ。市民のみなさんが楽しむことができる存在であることです。」地元の方々は当たり前過ぎて価値を

知らない、けれどこんなに遠浅で、小さい子どもでも安心安全に遊べる海はないと、松本さんは語ってくれました。「海外の研究者が、和白の海は生き物の生態学習にとっても良い場所なんだと教えてくれたことがあります。比較的小さな湾の中に、干潟や砂浜、磯などさまざまな種類の海環境がある。こんなところはなかなかない。これから若い世代に、この貴重さを伝えていきたいです（松本さん）。」

今年も夏は終わりますが、地元の貴重な海の風景を残していきたいと、取材後に思いました。

この方たちに聞きました！



小金丸 瑞穂さん
和白郷土史研究会
松本 悟さん
ウエットランドフォーラム



▲ エリアマップ



234 さまざまな環境や季節の中で、子どもたちは生き物について学ぶ。



地域 〇〇 団体

わじろ元気印 — この地域で「力いっぱい」活動する団体の情報 —

山下 慎治さん 三苦出身のブラインドマラソン選手

三苦出身のブラインドマラソンランナー、山下慎治さん。目で見える範囲が極端に狭くなる病気と付き合いながら、ブラインドマラソンを開始。フルマラソンで数々の大会に出場、今年はロンドンでも走るなど着実に記録を残し、パラリンピックの出場が期待されている存在です。今回は山下選手の職場にお邪魔し、お話をうかがいました。

Q マラソンランナーとなった経緯は？

高校生の頃までは、小学校の頃からラグビーをしている普通のスポーツ少年

だったんです。18歳の頃、視野が狭くなる「網膜色素変性症」と診断された時は、本当に驚きましたね。一時はスポーツを諦めた時代もあったのですが、その頃と同じ症状を持ちながら、ゴールボールでロンドンパラリンピックに出場し団体金メダルを獲得した浦田理恵選手のことを知って勇気づけられ、再びスポーツをやってみようと思ったんです。まずは体力づくりだと考えて、走り込みのために体験した大濠のブラインドマラソンの伴走者の方に「フルマラソンに挑戦してみないか」と薦められて、現在に至っています。



▲ 大濠公園での練習風景。伴走者の方とともに。

Q 現在の練習や目標を教えてください。

現在は浦田選手と同じく仕事と競技の両立を目指す障がい者スポーツ選手雇用センター「シーズアスリート」に所属しています。朝と夕方、主に大濠公園で練習をしています。目標は2020年東京のパラリンピックです。現在の自己ベストは2時間47分00秒なので、2時間40分を切ることがひとつの目安ですね。伴走者の方とともに、日々練習に励んでいます。

Q 地域のみなさんへメッセージをお願いします。

三苦は両親が住む、若い頃を過ごした思い出の地です。地域の方々がこんなに応援してくれているのを知って、驚きでしたが大変嬉しいですね。お話した通り、私も浦田選手の挑戦や勇気に感動してまたスポーツを始めました。ささやかですが、私の走りが故郷の地域のみなさんに、勇気や感動を与えられたら。これからも応援よろしく願いいたします。



この方に聞きました！

山下 慎治さん
シーズアスリート



応援課だより — 地域がつながる、盛り上がる活動を応援 —

メダカの飼育 「コミセンめだか」が地域交流！

コミセン 2F 受付横にて、静かな人気を誇っている存在がいます。小さな水槽の中で泳いでいるメダカたちです。昨年春に登場し、コミセンスタッフが水換え、餌やりの世話をしながら飼育、利用者の方々に親しんでいただいています。

そして先日、和白東公民館さんの希望により、コミセンで育ったメダカの子どもたち数匹が同公民館の水槽にお引越し。

毎日元気に過ごしているとのこと。 “メダカ大使” というのは大げさかも知れませんが、地域をつないでくれているメダカたち、可愛がってあげてくださいね。

ご相談やお問合せはコチラまで

☎ 092-608-8480

✉ support@wajiro.info



▲ 公民館の水槽で元気に泳ぐ「コミセンめだか」